

# 特集 “新しい働き方”が燕の未来を変える

【問合せ】シェアオフィスに関することなど  
 商工振興課 産業支援係 ☎0256-77-8231  
 移住に関すること  
 地域振興課 交流推進係 ☎0256-77-8364



インテリア関連コーディネーター  
 まつだいら みつひさ  
**松平 光久** さん

パン屋店主  
 まつだいら まさえ  
**松平 雅恵** さん



①家族3人。お気に入りのハンモックの前で。／②庭に出て仕事をしたり、お茶を楽しんだりすることも。／③光久さんのテレワークの様子。／④雅恵さんが経営するパン屋（吉田下中野）は、木・土曜日営業。／⑤材料や工程をシンプルに、素材の味を活かしたパン。

新型コロナウイルスにより、テレワークなど従来の働き方に捉われない、「新しい働き方」が広がり、同時に、地方での暮らしを選択する人も増えています。

市では、そのような人たちに働く場所を提供し、新たな人の流れを作ることと目的として、シェアオフィスの整備を進めるとともに、人材不足への対策として、兼業・副業人材の活用を目指した取り組みを始めています。

そのような人材と市内企業が連携することで、新しい発想による独自の事業や製品が生まれていくことに期待できます。

今号では、市内で整備の進むシェアオフィスの現状や、「新しい働き方」で自分らしくささゆう颯爽と暮らしを紹介します。

## テレワークもパン屋のオープンも

今年1月、東京から燕市へ移住した松平さん一家。光久さんは、東京の頃からのインテリア関連の仕事をテレワークで続けています。雅恵さんは移住を機にパン屋を独立開業させました。

**光久**「ずっと東京で暮らしてきましたが、地方移住について妻とよく話をしていました。妻の実家が三条市なので近いところを探していたら、元パン屋の物件を見つけ、近くに家も借りることができ、本当に巡り合わせがよかったと思っています」そう話すのは光久さん。雅恵

さんは、東京でパン屋に勤めていた頃から独立を考えていたそうです。

**雅恵**「移住のタイミングで自分の店を持てたことはうれしいです。それから、移住は娘のためでもありました。燕市は山も海も近いので、自然に触れながらのびのびと育ててほしいと思います」

## 燕の暮らしに大満足

移住して約9カ月。東京とは違った良さがあり、燕での暮らしには満足していると話してくれました。

**雅恵**「地域の皆さんに本当に良くしてもらっています。この夏は、「近所さんにナスやキュウリをたくさんもらって、夏野菜には困りませんでした。あと、家庭菜園のアドバイスをもらったり。娘も友達ができ楽しく過ごしているようです」

## 企業との連携を思索中

晴れた日は、庭で過ごすことも多いという松平さん一家。光久さんはパソコン一つあれば場所を問わず仕事ができるため、娘さんと一緒に庭に出て仕事をこなすこともあるそうです。

## キーワード Key Word

**テレワーク**…情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。  
**シェアオフィス**…1つの空間を複数の企業や個人で共有するオフィスのこと。  
**兼業・副業**…収入を得るために本業以外の仕事を行うこと。

**光久**「仕事柄、出張して現場に行かないとできない仕事もありますが、それ以外は自宅で仕事をしていますね」  
 昨年度整備された市内のシェアオフィスにも利用登録をしています。

**光久**「シェアオフィスでいろいろな人や企業とコミュニケーションが取れたらいいですね。今後、交流会のようなものがあるれば、ぜひ参加したいです。そして、せっかくの「ものづくりのまち燕」に来たので、企業などと連携して新しいことに挑戦していけたらいいですね」